

8月の Global Session のお知らせ(2024)

期日:2024年8月18日(日)10:30~12:00

場所:ガレリア3階 会議室

ゲスト:濱田雅子さん(アメリカ服飾社会史研究者・神戸市在住)

ゲストはオンラインで

テーマ 1930年代アメリカの服飾史—アメリカン・ルックの誕生—

参加費:600円

申し込み:児嶋きよみ e-mail:[kiyomi-kojima@gaia.eonet.ne.jp](mailto:kiyomi-kojima@gaia.eonet.ne.jp)

内容

・アメリカン・ルックの誕生を以下の二つの問題に焦点を当てて、語らせていただきます。

1. 認知されたアメリカ人デザイナーの特質—単にアメリカ人デザイナーの認知と言っても、パリのデザイナーとの違い、アメリカ人デザイナーの特質を具体的に把握し、評価しなければ、真の意味でのアメリカ人デザイナーの認知とは言えないのではないか。
2. クレア・マッカーデルの生涯と活動

濱田雅子さんとオフィス・コン・ジュント主宰の児嶋との関わりは、「濱田雅子の服飾講座」『服飾から見た生活文化』シリーズ報告集に詳細に書かれています。また、児嶋きよみのホームページ(<https://office-comjunto.com>)でも、Global Session の過去の会を見られます。濱田さんは、前編(シリーズ1~10)では、ヨーロッパ・ファッションのアメリカへの伝わり方を中心に講演され、続編は、アメリカに開拓を始めた19世紀後半の衣服を中心にした生活文化に始まりました。濱田さんは、もともとアメリカに住んでいた先住アメリカ人の歴史と文化(シリーズ12・13)に目を向け、ナバホ族やプエブロ族の居留地に、実際に足を運んでおられます。

その後、アメリカのドレス・リフォーム運動に目を向け、パンツをはいた女性達の写真をたくさん見せています。19世紀中葉のアメリカでは、締め付ける衣服より体に良い衣服をと、ドレス・リフォーム運動が起こっていました。その後、パリモードからアメリカンルックへの激動に迫り、写真文化の発達が生んだ写真を見ながら19世紀アメリカの生活文化を、ファッションを中心に見直されました。今回は、前回の「1920年代アメリカの服飾史」に続く1930年代の服飾のアメリカン・ルックの誕生に迫ります。

ちょうど第二次世界大戦を前にした世界の動きを関連しています。ぜひ、自分達の服飾の流れを考える手立てにさせていただけたらと思います。

今回は、濱田講座は、(27)回目になります。みなさまのお越しを亀岡でお待ちしています。なお、濱田さんの友人の方々でオンラインでの参加もあります。ごいっしょに、離れた場所からもセッションをしていきたいと思えます。よろしくお願ひします。

オフィス・コン・ジュントは、2014年6月19日に「あたたかい京都作り推進特別賞」を京都府知事から受賞しました。多文化共生分野での受賞です。これからもよろしくお願ひします。